



巻頭言

三つの“V”

岩手県農業研究センター

園芸畑作部 部長 小野田 和夫

農学職で県に採用される者のうち、多くは試験研究を希望するようだが、その配属先は普及、行政、試験研究と様々である。小生も初任地は農業後継者の養成機関で、真冬の朝の最低気温が -25°C にもなったことがある高標高地で4年間を過ごした。この頃読んでいたある技術関係雑誌の中に、「若き研究者へ」というコラムがあり、技術開発にかける夢とチャレンジ精神などについて、当時の錚々たる研究者が寄稿していたものがあつた。これを読みながら、試験研究の仕事も面白そうだと、漠然とした思いを持っていた記憶がある。

つい先日、車を運転しながらラジオを聴いていたら、「三つのV」ということについて話されていた。興味深いものがあつたので、帰ってから調べてみると、これを説いたのは日野原善輔さんという牧師で、その息子の聖路加病院名誉院長の日野原重明さんが、90歳を超えた今でもその教えを大切にしているのだそう。これらのVとは、「Vision」、「Venture」、「Victory」のことで、①未来像、将来に対する構想をしっかりと持つこと。夢も大切。大きな夢ほど良い。②冒険的な事業、新技術開発。ベンチャー精

神を持ってチャレンジすること。③そして導かれる成功、勝利。であり、この三つを念頭において地道に努力すれば必ず道が開ける、ということなのだそう。これは人生訓なのだが、三十数年前に読んだコラムの内容と、相通じる点があると思った。

普及や行政から研究職に異動してきた若い職員で、もっと自由な発想で研究ができると思っていたが、現実には仕事に追われて、なかなかそうはできないと感じている職員も少なくないようだ。限られた予算と人員の中で、現場からの要望に応える技術開発で手がいっぱい状況だが、2割、できれば3割の時間を、新しい発想で夢のある研究に向けられるようにしたいものだ。これが、例えばりんどうの品種開発に見られるように、革新的な技術の開発と普及に繋がるのだと思う。

県ではIMSの推進に力を入れているが、研究業務においても、無駄を省いて編み出した時間を、新たな価値創造に向けて行きたい。この場合、三番目のVをValue（価値）に置き換えれば、「三つのV」はまさに顧客価値創造へのプロセスになることだろう。

巻頭言 「三つの“V”」 園芸畑作部長 小野田和夫
トピックス・1

集落営農合意形成のための「集落営農組織化効果試算シート」
..... 企画経営情報部農業経営研究室 前山 薫

トピックス・2

「寒締めほうれんそう」の播種時期判定とハウス管理の目安
..... 県北農業研究所産地育成研究室 目時 梨佳・佐藤 正昭

トピックス・3

「5S運動」の取り組みについて
..... 総務部総務課 阿部 均

お知らせ

農業科学博物館・第32回企画展「むかしの住まい、暮らしと家畜」を開催中です

トピックス・1

集落営農合意形成のための 「集落営農組織化効果試算シート」

農業研究センターでは、集落営農の実施に向けた農家の合意形成を支援するため、集落営農を実施した場合の効果を簡易な入力操作で試算することができる「集落営農組織化効果試算シート」を開発しました。

本ソフトは、アンケート等で把握した各農家の「現状」の土地利用状況と、集落営農組織や担い手農業者に土地利用を集積するなどの「改革案」を入力するだけの簡単操作で、集落全体や個別農家毎の収入・支出・所得・労働時間・主要農業機械の台数等の変化等、組織化の効果を試算することができます（図1）。

試算結果は、グラフ形式や表で出力されます。例えば、図2のように集落営農に取り組むことにより、営農が効率化され労働時間が大幅に短縮していること、支出が減り所得が赤字からプラスに転じ、主要農業機械の台数も大幅に減っていることがグラフ表示されるなど、組織

化のメリットを容易に読みとることができるのが特徴です。

現在、県下では、集落ビジョンの実現に向け、営農の組織化や担い手の育成が重点的に進められています。こうした取り組みの中、集落座談会等において本ソフトから得られた身近な試算結果を各農家に示すことで、集落営農組織化や担い手への農地集積に対する合意形成が進みやすくなると思われます。

本ソフトは、各地方振興局農政担当部と農業改良普及センター等に配布しており、無償で入手することが可能です。集落営農合意形成に向けたツールとして、現地でぜひ活用していただきたいと思ひます。

①基本情報の設定（メインシート）

集落名、水田面積、農家戸数

収量・販売単価、地代、作業料金の変更
(必要に応じ、初期値である技術体系データを変更して試算)

②農家毎の現状の土地利用状況の入力(現状シート)

所有水田面積、水田貸借の状況、水稻・麦大豆の作付面積、受委託面積

③農家毎の組織化後の経営計画の入力(改革案シート)

集落営農組織化後の農家毎の経営状況を入力(入力項目は②に同じ)。

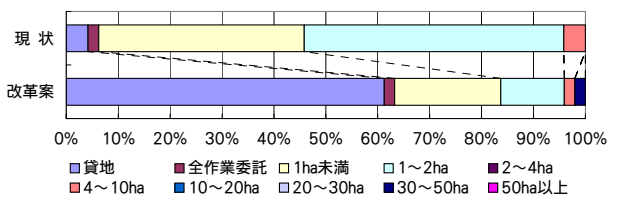
④試算結果の閲覧

- ・試算概要表、グラフ(現状と改革案の比較)
- ・個別農家(組織)別経営概要・収支等集計表(現状、改革案)
- ・経営面積階層別経営概要・収支等集計表

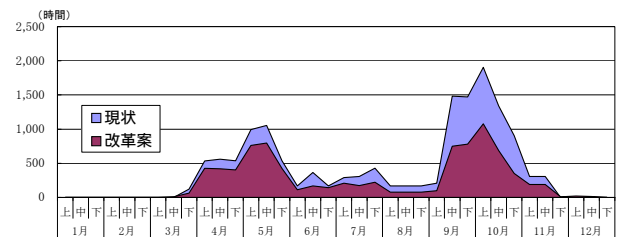
図1 システムの利用手順

試算結果のグラフ表示

【農家経営形態別構成比】



【対象集落(地域)全体の旬別労働時間】



【対象集落(地域)全体の収支・所得等の変化】

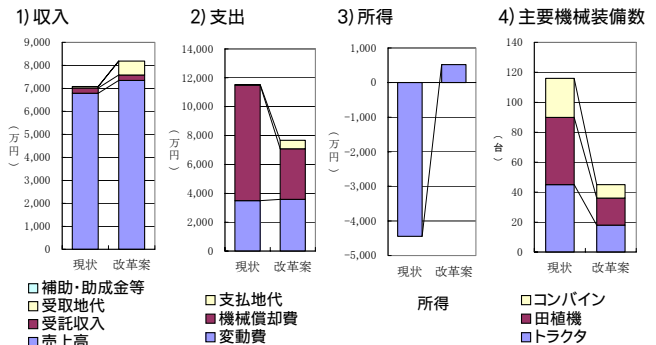


図2 試算結果のグラフ表示例

トピックス・2

「寒締めほうれんそう」の 播種時期判定とハウス管理の目安

本県では、冬の低温を利用した「寒締めほうれんそう」を振興していますが、品質や収量が気象に大きく左右され、特に播種時期の決定に苦労しています。そこで、(独)東北農業研究センター等と共同でほうれんそうの「温度－生育モデル」(以下モデル)を作成し、播種時期とハウス開閉管理の目安となる成果をまとめたので紹介します。

播種時期判定の流れは、①アメダス日平均気温データから算出した日平均地温をモデルに入力して地上部重を予測します。②判定条件として、糖度の上昇開始が地温8℃以下であることから表1の軽米町(品種「朝霧」)では寒締め開始が12月2日となり、③その時点で地上部重が40g以下。④また、気温上昇で糖度が下がり始める寒締め出荷限界を2月末日とし、⑤その時点で地上部重が30g以上確保。⑥

この生育範囲に過去30年のうち8割以上の確率で当てはまる播種日を逆算したところ、ハウス閉め切りで10月5～10日(表の網掛け部分)、ハウス閉め切り+べたがけで10月5～15日と判定されました。

次に、上記と同様にアメダス気温平年値から日平均地温を算出し、モデルに入力することで今後の生育予測が可能になります。また、生育途中での地上部重またはアメダス気温から算出した地温を随時モデルに入力することで、より実測に近い予測値を得ることができ、出荷目標日に目標重量を確保するにはハウスを閉め切るか、またはべたがけを追加するかの判断材料とすることができます。

なお、収穫の際はBrix糖度を測定し、品質に万全を期して下さい。

表1 品種「朝霧」の「温度－生育モデル」を利用した播種日判定例(軽米)

| ハウス管理 播種日 | ハウス管理の違いによる寒締め出荷可能年の割合(%) | | | | | | | | |
|--------------|---------------------------|----|-----|------|-----|----|-----------|-----|----|
| | 開放管理 | | | 閉切管理 | | | 閉切管理+べたがけ | | |
| | 可能 | 過大 | 過小 | 可能 | 過大 | 過小 | 可能 | 過大 | 過小 |
| 9/20 | 28 | 72 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| 9/25 | 76 | 14 | 10 | 17 | 83 | 0 | 0 | 100 | 0 |
| 10/1 | 59 | 0 | 41 | 66 | 34 | 0 | 17 | 83 | 0 |
| 10/5 | 21 | 0 | 79 | 90 | 7 | 3 | 83 | 17 | 0 |
| 10/10 | 10 | 0 | 90 | 86 | 0 | 14 | 97 | 0 | 3 |
| 10/15 | 0 | 0 | 100 | 69 | 0 | 31 | 93 | 0 | 7 |
| 10/20 | 0 | 0 | 100 | 38 | 0 | 62 | 79 | 0 | 21 |
| 10/25 | 0 | 0 | 100 | 14 | 0 | 86 | 62 | 0 | 38 |

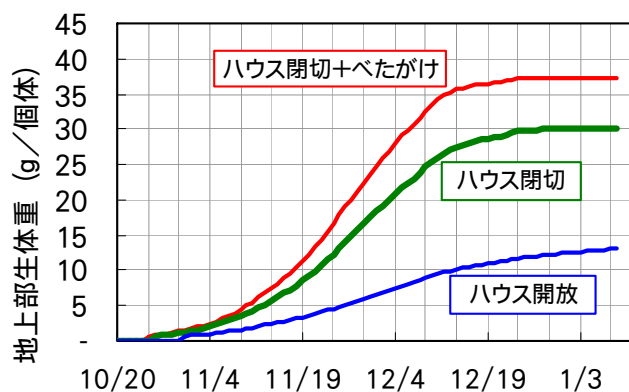


図1 ハウス管理の違いによる生育予測
(品種「朝霧」、10月5日播種・軽米)

写真 品種「朝霧」の生育状況

トピックス・3

「5S運動」の取り組みについて

農業研究センターでは、5S（整理、整頓、清掃、清潔、習慣）運動に取り組んでいます。

この5S運動は、各部の事務室や倉庫などを整理・整頓し、仕事をしやすい職場環境にすることはもとより、職場を見渡し、使わない書籍や書類などを見つけて取り除き、「使わないモノ」つまり「無駄」を見つけることを習慣づけることも目的としています。

各部の取り組みについて、若手研究員が

毎月交替で他部署の点検・チェックを行い、更に点検後には、各部の取組みの良い点、悪い点を話し合いながら、5Sのレベルアップを図っています。

この運動の展開により、それまで乱雑であった事務室や倉庫が整理され、また、若手研究員のベンチマークや意識改革が図られるなど、業務能率の向上に寄与しています。

<担当：総務部総務課 阿部 均>



写真1 点検状況



写真2 点検後のディスカッション

お知らせ

農業科学博物館・第32回企画展 「昔の住まい、暮らしと家畜」を開催中です

農業ふれあい公園・農業科学博物館では、5月31日までの予定で企画展「昔の住まい、暮らしと家畜」を開催中です。

主な内容は下記のとおりです。

- ・厩（うまや）のある家の間取り
- ・家畜を飼う家の型式
- ・岩手県で信仰されている「馬の神」
- ・家畜を使った水田農作業

なお、詳しい内容については、農業研究センターのホームページでも紹介しています。



「南部曲り屋」

編集・発行 **岩手県農業研究センター** 代表者 **太田 義信**

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1 電話 0197 (68) 4402 (企画経営情報部)
ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/> E-mail : CE0008@pref.iwate.jp